

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開実用新案公報(U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-12700

(43)公開日 平成5年(1993)2月19日

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>  
F 0 4 D 33/00

識別記号 庁内整理番号  
7314-3H

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全 2 頁)

(21)出願番号 実願平3-87657

(22)出願日 平成3年(1991)7月29日

(71)出願人 591238383

川上 恵一郎

長野県大町市大字大町3303番地

(72)考案者 川上 恵一郎

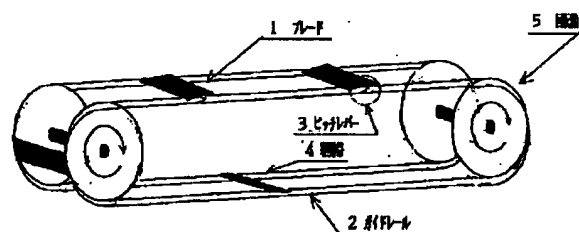
長野県大町市大字大町3303番地

(54)【考案の名称】 送風機

(57)【要約】

【目的】 送風面の厚さ及び縦横比任意の矩形である送風機により換気扇等の設置の自由度を増す。

【構成】 適度な間隔でキャタピラ様に配置されたブレード1を並進及び回転運動させる。



【実用新案登録請求の範囲】

送風面の厚さ及び縦横比任意の矩形である送風機

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案対象例の構成概要である。

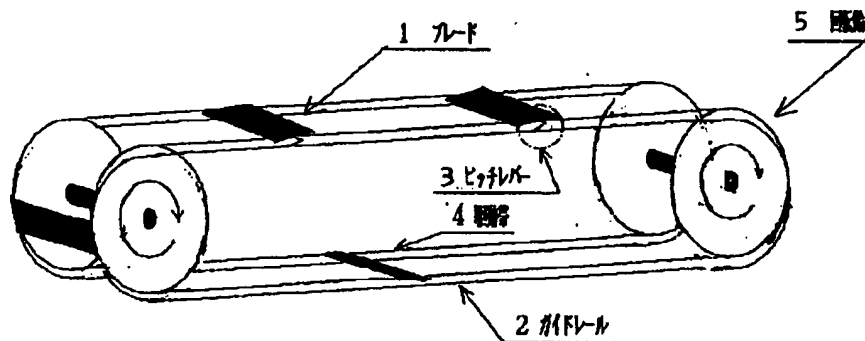
【図2】 ピッチレバー部分の拡大図である。

【図3】 図1の断面を示す。

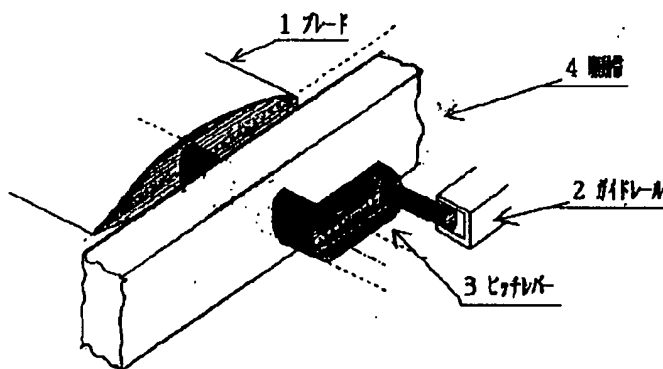
【符号の説明】

1・・・ブレード、 2・・・ガイドレール、 3・・・  
ピッチレバー 4・・・駆動帯、 5・・・回転輪、 6・・・案内溝

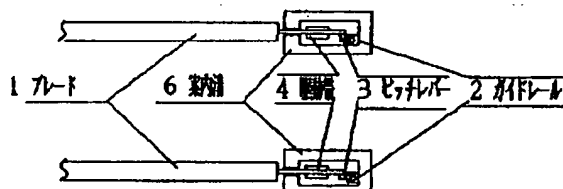
【図1】



【図2】



【図3】



#### 【考案の詳細な説明】

扇風機や換気扇等従来の送風機の正面形は全て円形であ

る。従って、当該送風機の取り付けには円形ないしは最低限、当円に外接する正方形の面積が必要である。本考案の対象とする送風機の正面形は矩形であり縦横比が任意に設定でき且厚さも任意であるため、取り付け、配置等の自由度が大幅に増す。従来の送風機は一本の軸に垂直な面内のブレードの回転により空気流を発生させているので当該送風面は円形とならざるを得ない。これに対し、たとえば、ブレードを適度な間隔でキャタピラ様に配することにより当該送風面は縦横比任意の矩形にすることができる。図面により説明する。第1図は本考案を可能とする送風機例の概要を示す。各ブレードを結ぶ駆動帯・・・4の運動によりブレード・・・1が並進及び回転移動し送風を行う。駆動帯はモータ等を駆動源とした回転輪・・・5で駆動される。なお、回転輪・・・5に駆動源を連結せずに駆動帯の、例えば、中間部等で駆動力を付加することも可能である。図2はピッチレバー部を拡大した図である。ガイドレール・・・2の上下あるいは前後移動によりピッチレバーを介してブレード・・・1は迎え角が変化する。ガイドレールは適切な位置に固定してもよい。また、風量調整は回転数の増減によっても可能である。駆動帯はベルトやチェーン等を用いることができる。図3は図1の断面を示す。駆動帯部に案内溝・・・6を設けブレードの空気力を案内溝に伝達し、またブレードの波打ち運動等を押さえることが可能である。